

本文書は改訂版があります。下記のページから最新版を御覧ください。

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/2484-idsc/9372-2019-ncov-04.html>

新型コロナウイルス感染症の現状の評価と 国内のサーベイランス、医療体制整備

2020年1月22日

国立感染症研究所

国立国際医療研究センター 国際感染症センター

■ 現状の評価

中国の武漢市において検知された新型コロナウイルス感染症は、感染源、感染経路を含め、未だ、全体像がつかめない状況である。武漢市の市中における感染伝播の規模が、国内対応を決める上での重要な情報であるが、現時点で、武漢市や WHO から公式の見解が出されていない。

報告されている患者の年齢層の主体は成人であるが、1月21日時点で10歳の症例が1例、広東省で確認されている。

武漢市における院内感染について、1月21日に、WHO 西太平洋地域事務局が医療関係者における感染に始めて言及した。

また、新型コロナウイルス感染症の重症度は、現在、武漢市から公表されている情報だけでは、包括的に評価ができる段階にはなく、臨床像、治療方法についても、十分な情報が開示されていない。

現状、中国国内および諸外国において、武漢市に関連のある症例のみが探知されているが、武漢市に滞在歴のあるもののみが検査対象となっているためであるか、真に武漢市以外で感染の可能性がないかどうかについては、評価ができる段階ではない。

■ 国内対応

武漢市において、どの程度、新型コロナウイルス感染症が発生あるいは流行しているのか、情報が乏しいことから、軽症例によって国内に新型コロナウイルスが持ち込まれる場面は

当然想定しておかなければならない。ただし、軽症例を含め、すべての新型コロナウイルス感染症を検疫所や国内医療機関で探知しようとすることは、検査前確率が十分に高い確証が得られない現状においては、現実的ではない。

よって、武漢市から十分な情報が得られていない現状において、最重要で対応をすべきは、国内における重症の新型コロナウイルス感染症の探知である。

- ◆ 症例探知の仕組み：国内における新型コロナウイルス感染症の探知様式は、今のところ、以下の3系統を準備している。以下の1)によって、武漢市関連の中等症以上の新型コロナウイルス感染症を探知することを企図している。
 - 1) 武漢渡航歴があり、肺炎症状をもつ症例の場合は、疑似症サーベイランスの枠組みで新型コロナウイルス遺伝子検査ができる仕組みを整えた（「新型コロナウイルス感染症月に対する対応と院内感染対策（1月21日改訂版）」）
 - 2) 「新型コロナウイルス（Novel Coronavirus：nCoV）感染症患者に対する積極的疫学調査実施要領（暫定版）（1月21日版）」を整備し、新型コロナウイルス感染症の確定例の濃厚接触者の発症時、感染症法15条の枠組みで、新型コロナウイルス遺伝子検査ができる仕組みを整えた。
 - 3) 疑似症サーベイランスにおいては武漢市渡航歴の有無に関わらず、原因不明重症感染症を探知し、必要な公衆衛生対応（新型コロナウイルスの検査を含む）をとることが可能である。

ちなみに、国内第一例目は、1)によって探知され、定型的な積極的疫学調査を実施し、現在、濃厚接触者がモニタリングされている。

- ◆ 検査体制：中国から開示されたゲノム情報に基づき、感染研においてコンベンショナルPCR検査を実施する準備が整い、地方衛生研究所において、コンベンショナルPCR検査が可能となるよう、現在、準備が進められているところである。上記の症例探知の仕組み1)2)によって行政検査を実施する場合の検体採取と輸送の手引きは1月21日に国立感染症研究所のウェブサイト上で公開された。
- ◆ 新型コロナウイルス感染症の軽症例・疑い例への対応：武漢市への渡航歴があり、入院の適応にならない程度の症状をもつものについては、自宅隔離の上、適切に感染防止策をとること、また、適切に症状を保健所がモニタリングし、悪化時には、上記の症例探知の仕組み1)で対応することも検討する（「新型コロナウイルス感染症月に対する対応と院内感染対策（1月21日改訂版）」、「新型コロナウイルスによる感染症患者の退院及び退院後の経過観察に関する方針（案）（1月21日版公表予定）」参照）。

- ◆ 確定例等に対する感染対策：「新型コロナウイルス感染症月に対する対応と院内感染対策（1月21日改訂版）」を参照のこと
- ◆ 確定例等の退院基準：「新型コロナウイルスによる感染症患者の退院及び退院後の経過観察に関する方針（案）（1月21日版公表予定）」を参照のこと
- 今後必要な対応
 - ◆ 新型コロナウイルス感染症の治療指針：国内では、新型コロナウイルス感染症の重症患者をできるだけ早く探知し、適切に治療ができる準備をしておく必要がある。武漢市からの情報が開示され次第、感染症専門医、集中治療医等の適切なメンバーで治療指針を作成する必要がある。
 - ◆ 感染管理：武漢市における院内感染についての情報が開示され、現行の感染対策を強化する必要性が出てきた場合は、必要な文書を作成して対応する。
 - ◆ 感染症法の類型に関する検討：武漢市やそのほかから得られる新型コロナウイルス感染症の感染源、感染経路、重症度などの情報を、総合的に勘案して決定する。
 - ◆ 市中の集団発生への対応：軽症例による新型コロナウイルスの国内への持ち込みにより、市中において、新型コロナウイルスの集団発生が発生することも想定し、その探知経路とその対応について検討しておく必要がある。
 - ◆ 医療機関における集団発生への対応：探知できていない新型コロナウイルス感染症を発端に、同感染症が医療機関内で集団発生することも想定し、その探知経路と対応について検討しておく必要がある。
 - ◆ 検査体制：現行の検査系では検査に時間がかかり処理可能な検体数が限られる。今後、検査が必要となる症例が増加することが予想されることから、感染研で新たな病原体遺伝子検査系の開発を進めていく。リアルタイム PCR 法による新たな検査系の開発に成功した折には、地方衛生研究所、検疫所においても当該検査系が実施可能となるように準備を進める必要がある。また、現在は検査に適した検体についての情報が乏しく、検体採取の手引きにおいては多種類の検体を採取することを推奨しているが、今後、検査件数が増えるに従って、検査検体の取り扱いが変更されることが考えられる。状況に応じて、「2019-nCoV（新型コロナウイルス）感染を疑う患者の 検体採取・輸送マニュアル（1月22日）」を更新する。

